浄泉寺報
第36号
２０２４年
春彼岸

昨秋の彼岸会のお勤め

彼岸会に想う

浄泉寺住職　望月廣三

お彼岸という世界はどんな所でしょうか?そんなことが彼岸になると考えてしまいます。彼岸は此岸(しがん)に対して言われています。此岸はもちろん迷いの世界です。そして、この迷いの世界と彼岸という極楽の世界との距離が、何と「十万億仏土(ぶつど)」だと教えられているのです。つまり途方もなく遠い距離です。これは誰でも簡単に行けない、行くためには条件がある、それは仏さまを信じることだ、と教えているのです。ところが、私たちにとって「信じる」ということは大変難しいですね。仏さまは「わたしを信じなさい。そうすれば必ず救います」と言われていますが、「そういたします」とは言えない。どうしてでしょうか?その要因は何と言っても、信じたい動機がないからでしょう。このおかげで、という強烈な仏さまへの〝恩〟がないからだと思います。此岸という迷いからの世界から彼岸という救いの世界に行くためには仏さまを「信じる」自分になるほかないのです。

この命題を念頭に置きながら、お彼岸のお勤めをしましょう。

浄泉寺からのお知らせ

●同朋会(どうぼうかい)（月例法座）●

浄泉寺では、毎月お勤めと住職の法話を中心にした同朋会を開催しています。どなたでもお気軽にご参加いただけますので、ぜひお越しください。日程等の問合せは浄泉寺まで。

- 若坊守(わかぼうもり)のひとりごと -

小さな頃はただ数歩歩いただけで喜んでいたのに、十歳になった娘の成長を細やかに感じていない自分に気づかされることがあります。出来たことより、出来ていないことばかり見ている。もっと出来てほしいと望んでしまう。「人」を育てる責務が親にはあると思いますが、その責務を、自分の思い通りにしたいこだわりとすり替えていないか。子どもを自分の心を満たす所有物のように考えていないか。そんな危うさを自分の中に感じ、ヒヤリとするのです。

「私の」子どもだから傷つけられたら憤るし、言うことを聞かないと許せない。この「私」というものが先立つ限り、子どもを「一人の人間」として純粋に見つめることは無理なのかもしれません。しかし自分の自我を見つめると、娘もまた自我を持つ、私とは全く違う存在であることに気づかされるのです。

娘と喧嘩をし、娘の行動を責めているようで、実は「私」を困らせていることに腹を立てていたことに気づき、きつく責めてごめんと言うと、娘もごめんと返してくれました。親って難しいなぁと思わず上を向いてしまう日々です。

（浄泉寺若坊守・釋尼彌名(しゃくにみみょう)）

お内仏（仏壇）に座る ㉞ ～ 如来より賜りたる信心 ～

御絵伝「信心諍論」の場面。中央こちらを向いて座っているのが、親鸞聖人の師・法然上人。

「（法然）聖人の御信心も、他力よりたまわらせたまう、善信（親鸞）が信心も他力なり。かるがゆえにひとしくしてかわるところなし」（[意訳]私の師である法然上人の信心も、如来さん＝“仏さま”のはたらき・「他力」によって賜った信心であり、私・親鸞の信心も「他力」から賜ったもので、師匠か弟子かということで、異なるようなものではない）。

これは、親鸞聖人の御生涯を絵と文で示した『御伝鈔』（絵のみの部分を特に「御絵伝」という）に出てくる言葉です。ところが、法然上人の他の弟子達は「あの立派な法然上人の信心と、弟子である善信（親鸞聖人）の信心が同じであるはずはない」と親鸞聖人に異を唱えます。しかし、師匠の法然上人は「信心が異なるとすれば、それは自らの力を頼みにしての信心のこと。知識や経験で信心が得られるというのであれば、知識や経験が深い方が信心深いと言えるが、他力の信心はそうではない。どうしようもない人間同士、そんな人間をこそ救わんとする如来さんからいただいた信心であるからして、私・法然の信心も、親鸞の信心もまったく同じである」と仰います。

「仏を信じる」とは、様々な出来事に出遇う中で、自分が当てにしていたものがまったく役に立たないことを知らされ、もう手も足も出ないとなったところに開かれてくる世界なのでしょう。自分の思い計らいでの「信じる」「信じない」を超えて、仏さまの方が、私たちをすでに包みこんでしまっているといってもいいのかもしれません。その時、実はすでに仏さまの方から私に「信心」は与えられてしまっているのです。

（浄泉寺若院・釋亜世）

令和６年(2024年)年忌表

ご法事（年忌法要）は、亡き人をご縁に、仏さまの教えを、今生きる私たちが聞かせていただく大切な機会です。浄泉寺本堂でご法事を勤めることもできます。

一周忌	令和 5年(2023年)亡
三回忌	令和 4年(2022年)亡
七回忌	平成30年(2018年)亡
十三回忌	平成24年(2012年)亡
十七回忌	平成20年(2008年)亡
二十五回忌	平成12年(2000年)亡
三十三回忌	平成 4年(1992年)亡
五十回忌	昭和50年(1975年)亡

＜発行元・問い合わせ＞
真宗大谷派　楠林山　浄　泉　寺　　電話 0799-22-4798
〒656-0026 洲本市栄町４－３－４３
ホームページ http://jyosenji.asei.info